

## スニーカーファンを魅了するNIKE AIRの歴史は 1979年生まれのランニングシューズが原点だ

NIKEの絶対的なアイコンテクノロジーである“AIR”。ミッドソールに空気を封入し、クッション性を向上させる技術はフィンランドのKarhu（カルフ）が僅かに先行して特許を取得していたが、現代のスニーカーシーンで“AIR”と言えばNIKEを連想するのは世界共通だろう。NIKEの創業者であるフィル・ナイトに“AIR”を提案したのは、元NASAの技術者であったフランク・ルディである。フランク・ルディはポリウレタンに窒素ガスを封入したクッションングテクノロジーの特許を取得しており、そのテクノロジーを“AIR”の名で商標登録したのがNIKEだった。もともとフランク・ルディのアイデアをスニーカー用に整え、進化させたのはNIKEの功績であり、AIRを“NIKEを象徴するテクノロジー”と評する事に違和感は覚えない。そして“AIR”を初搭載したNIKE製ランニングシューズが、1979年にオリジナルがリリースされた“AIR TAILWIND”。ここで紹介するのはオリジナルディテールを忠実に再現した2018年発売の復刻モデルだ。

AIR TAILWINDが採用したエアユニットを外観から確認する事は出来ないが、そのミッドソールのウレタン素材には、つま先からヒール部まで薄く仕立てたフルレングス仕様のユニットが内蔵されている。ミッドソールの素材に空気を閉じ込めた薄いインソールが埋め込まれている構造をイメージすると良いだろう。前記の通りスニーカー史における“AIRのデビュー年”は1979年間違いは無いのだが、実は1978年に開催されたハワイのホノルマラソンに向け、6店舗限定で先行販売された歴史がある。メディアによってはAIRのデビューを1978年と表記する場合があるが、どちらも間違いではないので念のため。また最初期の“AIR”にはヒール部だけのユニットである“AIR WEDGE”も知られ、そちらは1982年発売の“PEGASUS”でデビューを果たしている。後のAIR MAXシリーズが“ビジブルエアのフルレングス化”をテーマに進化を続けた歴史とは対照的に、原点のAIRはフルレングスが先行していたのが何とも面白い。

AIR TAILWIND 79 OG  
FIRST AIR

Release year: 2018  
Style code: BG5878-001  
ライター:私物

